

(4) 眺望

特性－4 眺望

○「藪」から若草山などに向けての眺望

- ・旧公会堂においては建築及び庭園から若草山などへの眺望が活かされていたが、建替により眺望は庭園からに限定されている。
- ・庭園の空間構成は基本的に旧公会堂の頃と同様であり、若草山への眺望は庭園の景観構成要素として重要である。
- ・現在、庭園から若草山への眺望は、尾根部の高木が生長し大きく阻害されている。近年植栽管理により剪定が実施され、眺望は僅かに回復しているが十分ではない。

○尾根部から奈良盆地に向けての眺望景観

- ・尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、奈良盆地の景色が広がる中に「藪」、五重塔、生駒山等が眺められる。このような奈良盆地に向けて眺望が良好な箇所は奈良公園内では数少ないことから、積極的に活用すべき資源ある。
- ・現在は、尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、低木及び高木が生長し大きく阻害されている。

○周辺地からの眺望の景観対象

- ・尾根部のサクラ等は、周辺地からの眺望の景観対象となっている。特に、浮雲園地から若草山に向けての眺望景観は、奈良公園でも特に重要な眺望景観として位置づけられており、尾根部のサクラ等は景観対象として重要な役割を担っている。

1) 「麓」から若草山などに向けての眺望景観

①公会堂・奈良倶楽部の眺望景観

- ・「麓」に改修される以前の眺望景観について整理しておく。
- ・公会堂と奈良倶楽部は連なって配置されており、奈良倶楽部は木造3階建ての建築物で、上部の楼から南大門から大仏殿、若草山、御蓋山の眺望が十分に臨めるものであった。また、奈良倶楽部は南西寄りに配置されており、若草山への眺望に最も適したものであった。



写真：奈良倶楽部（公会堂）大正3年撮影 A

奈良倶楽部

奈良公園春日野大運動場の一方にありて南面し、公会堂と相連なり、閑静の一境を占む、明治二十三年の建築にして楼上に東大寺大伽藍東西に諸名山を望み、庭上砂浄くして、県内の内外大賓を迎うるや・・・

出典「大和名勝写真帖」奈良県発行

倶楽部

奈良倶楽部は、県有建物にして結構優麗春日、若草山を一眸に集め風景頗みる佳なり

出典「奈良名勝写真帖」大正4年発行



写真：「若草山から西方の旧奈良県公会堂をのぞむ」明治41年撮影 B

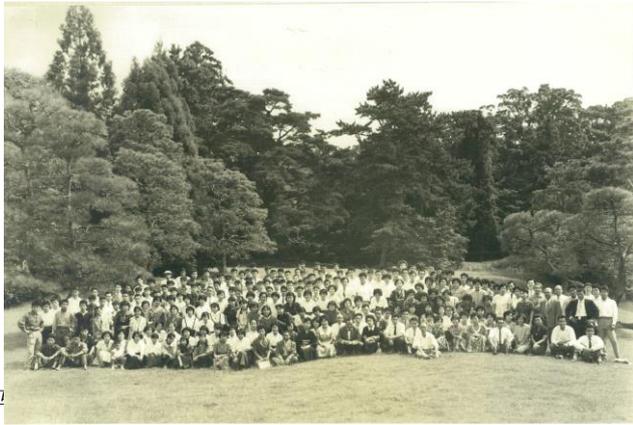
※原画では右奥遠方に国立博物館、五重塔が見える。



写真：南西位置から 昭和50年頃撮影 C



写真：建替工事中 昭和61年撮影 A



A : 「目で見る大和路」 藤井辰三

B : 目で見る奈良市の100年 (明治～戦後)

C : 「奈良公園の古写真募集」 応募写真



図 : 実測図面 奈良文化財研究所 昭和30年代

②「藁」から若草山への眺望景観

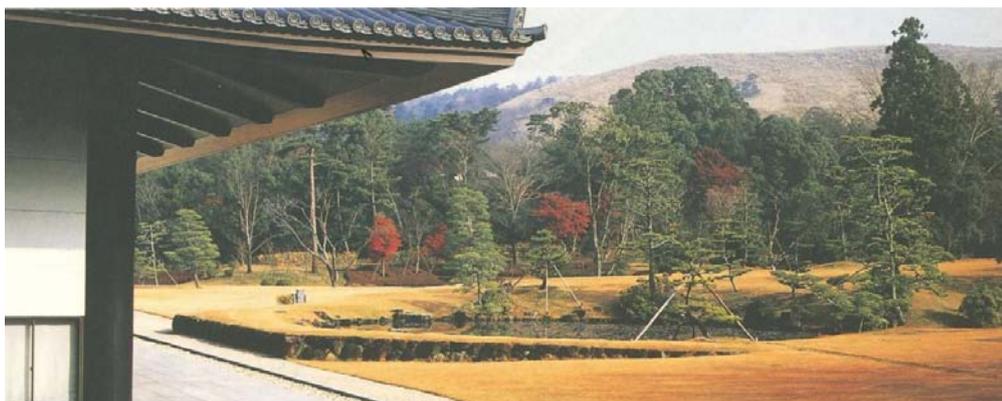
- ・「藁」は、建築面積約 4,715m² の大規模な建築物であり、大きな瓦屋根が特徴となっている。庭園を觀賞できる諸室としては、左右のロビー及び中央のレストランがある。
- ・「藁」を補完する施設として、平成 27 年に計画地北側に別館（旧公園管理事務所）が設置され、本館と別館をつなぐ部分には屋根付きの連絡通路が設けられている。
- ・本館 2 階部分からは屋根との位置関係により眺望はできない。よって眺望点は 1 階ロビー及びレストランとなるが、若草山方向に向けては尾根部の生長した樹木のため、若草山がほとんど隠れている。レストラン前ポーチ（地点 A）からの眺望も若草山はほとんど隠れているが、ポーチ南端からの眺望は幾分改善される。



写真：レストラン前ポーチから若草山に向けての眺望 地点Aから



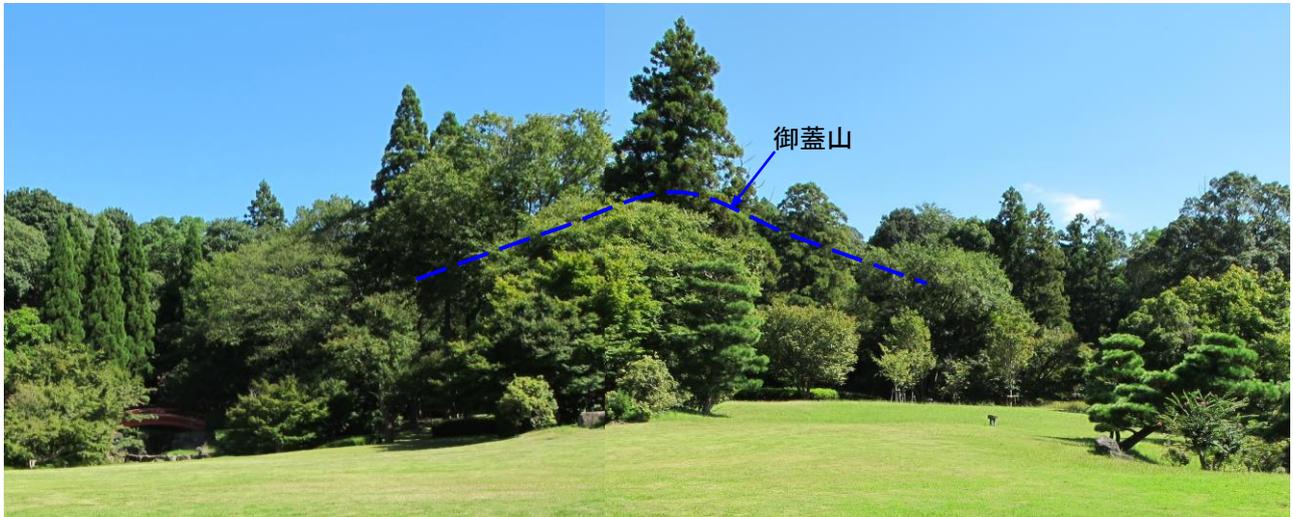
写真：庭園の南西端から若草山に向けての眺望 地点Bから



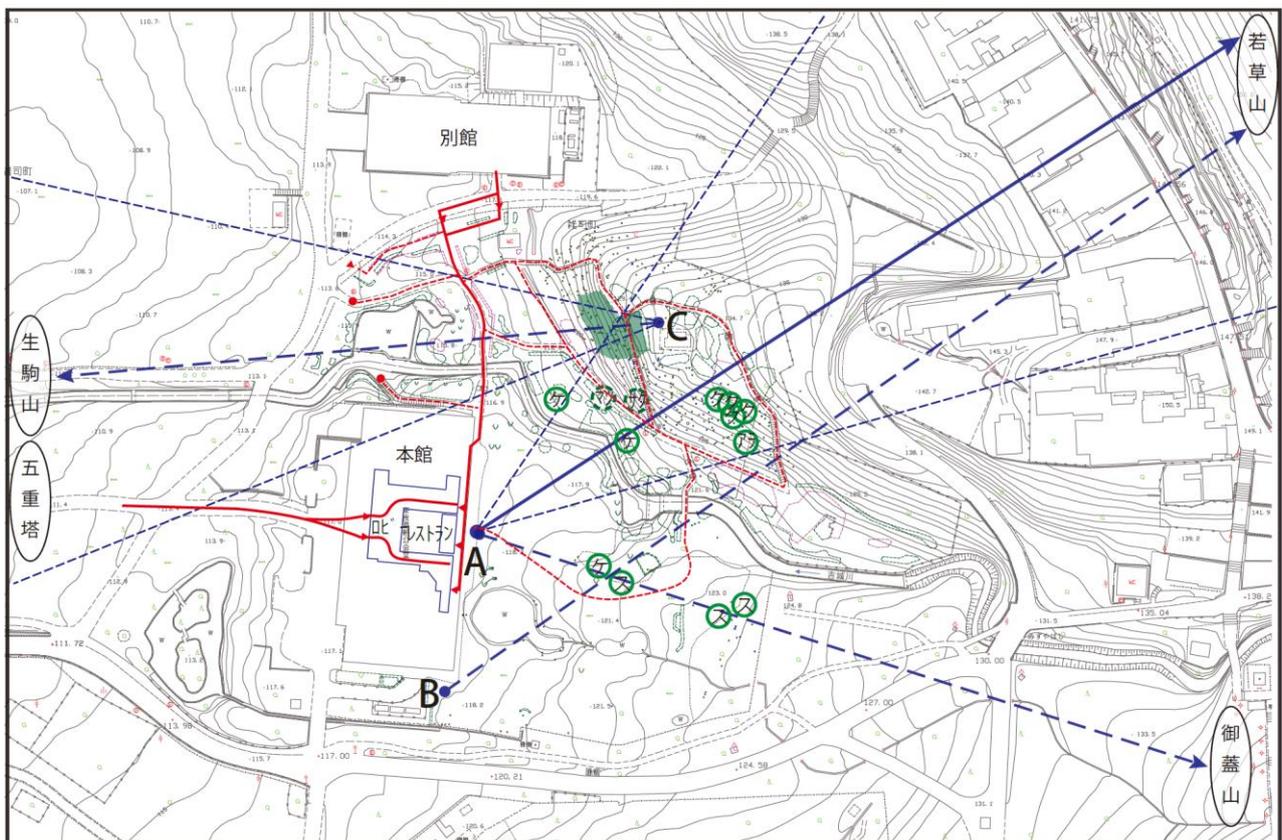
写真：整備直後（1992.11）庭園南西端から若草山に向けての眺望 地点Bから

③「麓」から御蓋山への眺望景観

- ・ レストラン前ポーチ（地点 A）から御蓋山への眺望は、樹木が生い茂っているため御蓋山がほとんど隠れているが、ポーチの南より部分には木の間越しに御蓋山が見られるところがある。
- ・ 御蓋山から春日大社境内一帯は深い樹林に覆われており、御蓋山への眺望は正面参道の一部に限られている。このことを踏まえると「麓」から御蓋山への眺望は、意図的に見えるようにするものではなく、場所によっては木の間越しに見えるという現状で適切と思われる。



写真：レストラン前から御蓋山に向けての眺望 地点Aから

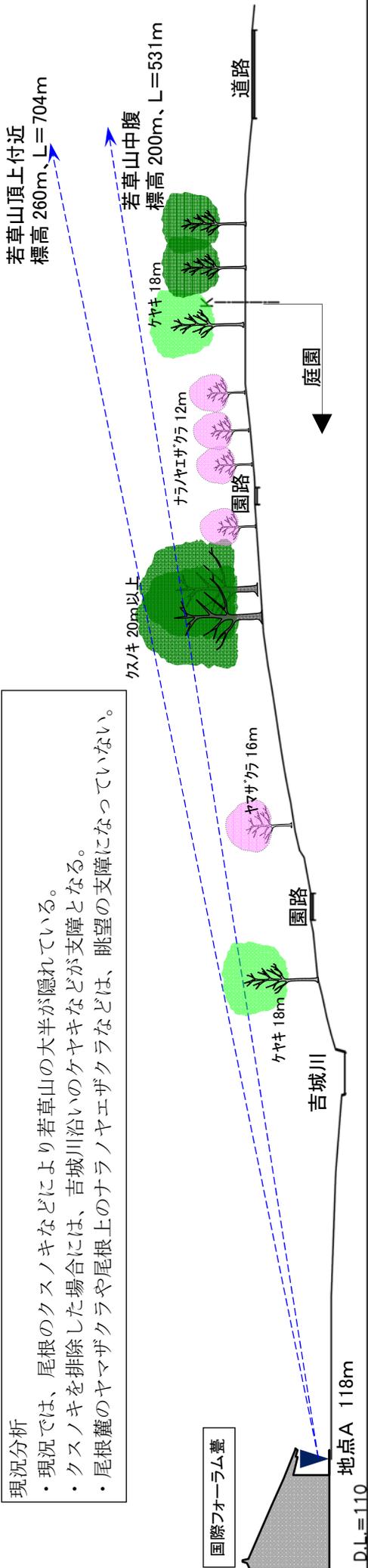


動線構成		支障樹木		支障樹木 (剪定済)		支障樹木のある植栽地		眺望資源の状況
—	主動線	ア	アラカシ	ク	クロマツ	■		
- - -	副動線	ク	クスノキ	ス	スギ			
▶	入口	ケ	ケヤキ	サ	サクラ類			

図：眺望資源の状況

現況分析

- ・ 現況では、尾根のクスノキなどにより若草山の大半が隠れている。
- ・ クスノキを排除した場合には、吉城川沿いのケヤキなどの支障となる。
- ・ 尾根麓のヤマザクラや尾根上のナラノヤエザクラなどは、眺望の支障になっていない。

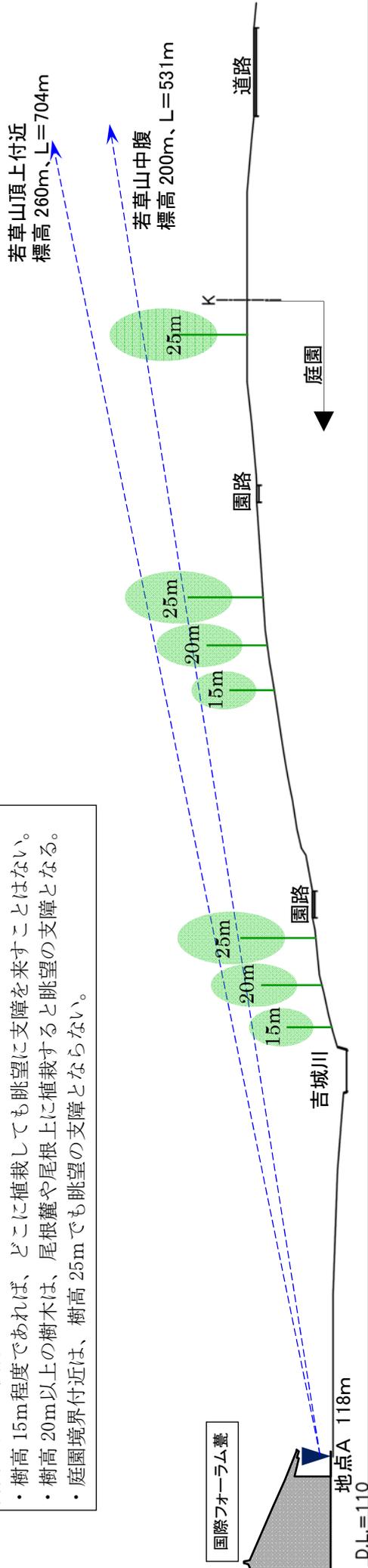


※概ね樹高 10m 以上の主要樹木を表記

断面構成図：地点Aから若草山への眺望（現況）

樹高と眺望の関係

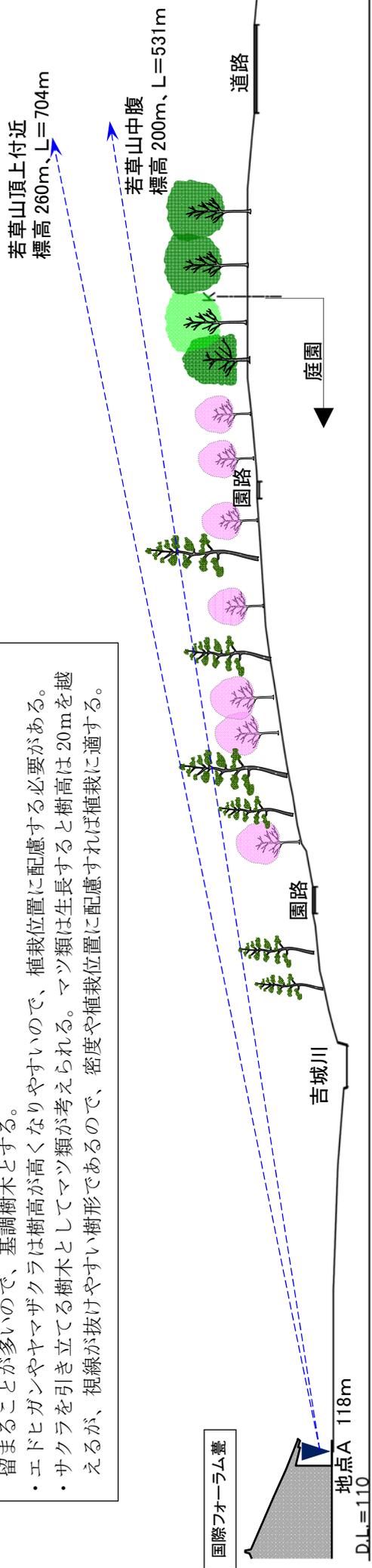
- ・ 樹高 15m程度であれば、どこに植栽しても眺望に支障を来すことはない。
- ・ 樹高 20m以上の樹木は、尾根麓や尾根上に植栽すると眺望の支障となる。
- ・ 庭園境界付近は、樹高 25mでも眺望の支障とならない。



図：同上（樹高と眺望の関係）

眺望確保 (案)

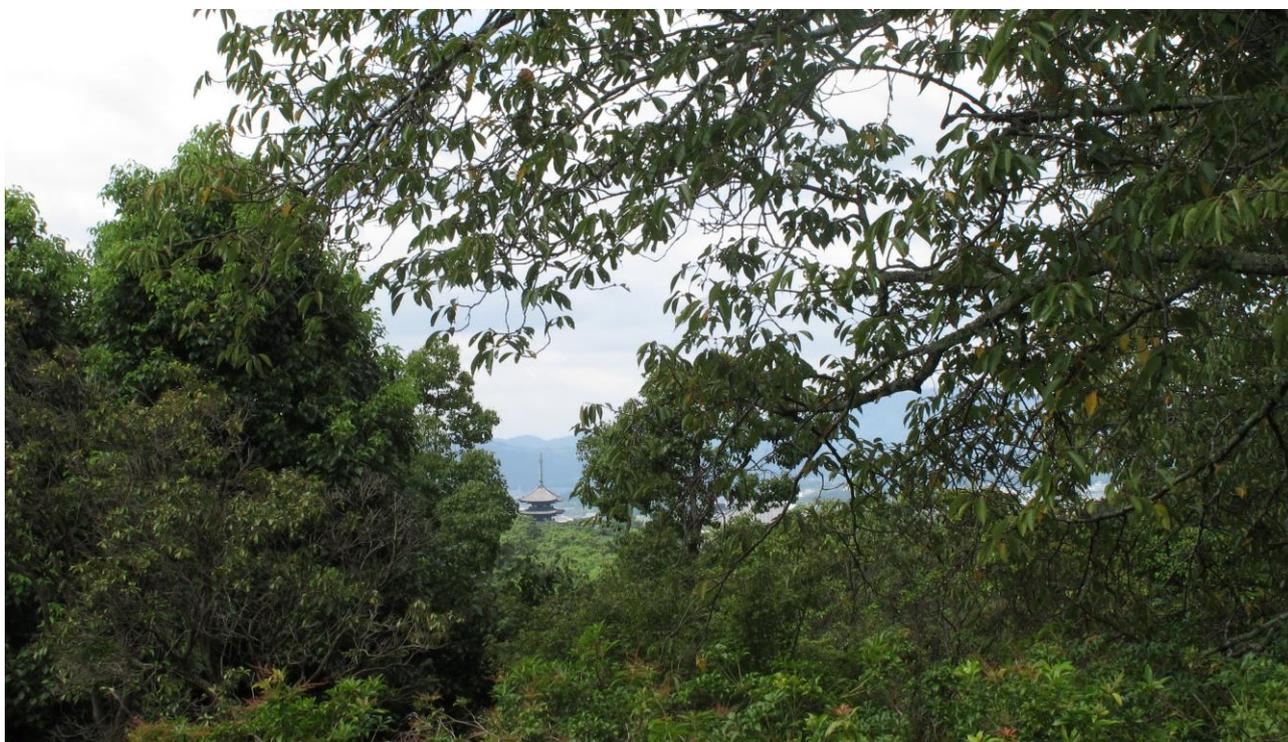
- ・ナラノヤエザクラやナラノコノエザクラなどは生長が遅く、生長しても樹高 15m 程度で留まることが多いので、基調樹木とする。
- ・エドヒガンやヤマザクラは樹高が高くなりやすいので、植栽位置に配慮する必要がある。
- ・サクラを引き立てる樹木としてマツ類が考えられる。マツ類は生長すると樹高は 20m を越えるが、視線が抜けやすい樹形であるので、密度や植栽位置に配慮すれば植栽に適する。



図：樹種転換による眺望確保 (案)

2) 尾根部から奈良盆地に向けての眺望景観

- ・尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、生長した樹木によりほとんど見えない。樹木の剪定や配植の見直しにより、遠景には奈良盆地と生駒山、近景には五重塔から東大寺南大門が俯瞰できるものと考えられる。(30頁 図：眺望資源の状況 参照)



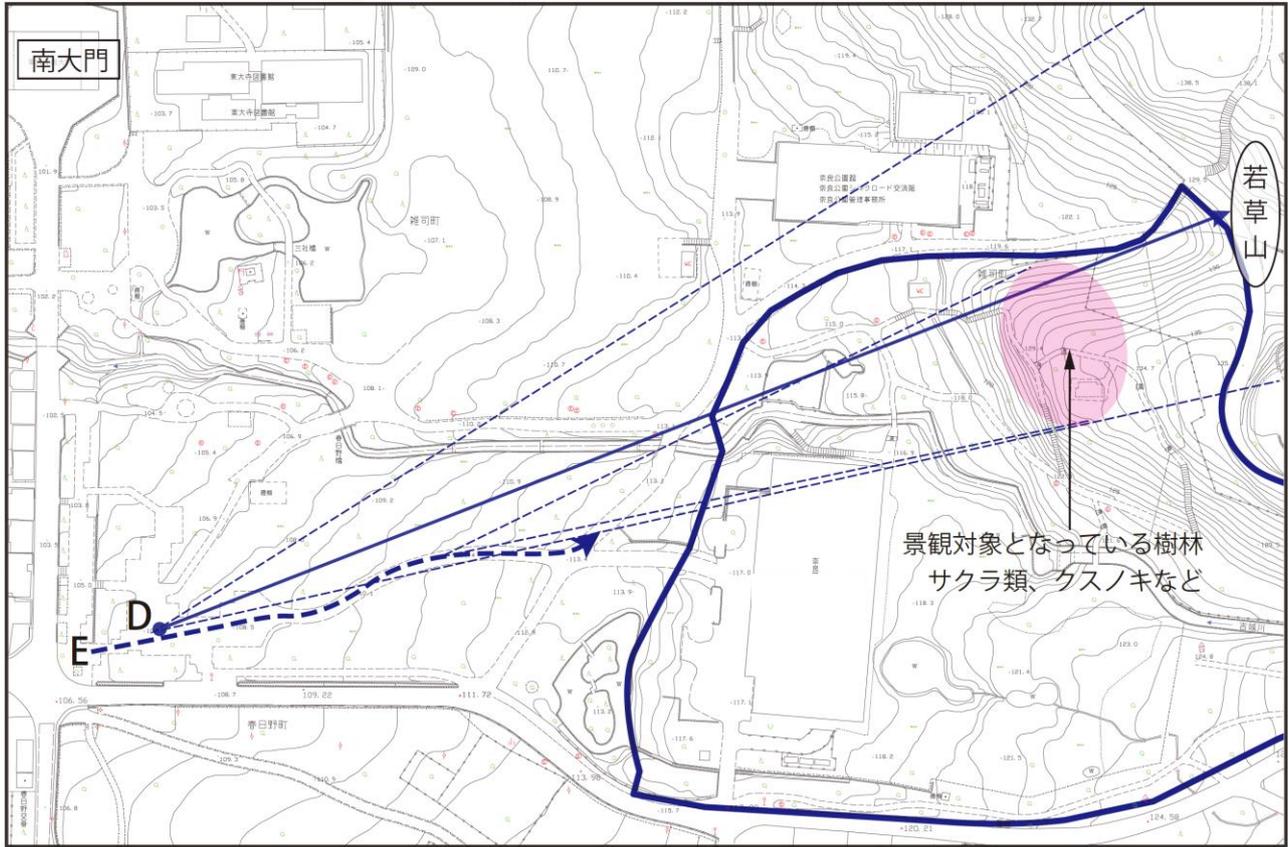
写真：尾根部副園路上の眺望点からの眺望 地点Cから



写真：尾根部休憩所南東の植栽地内からの眺望 地点Cの南東から

3) 周辺地からの眺望の景観対象

- ・尾根部のサクラ等は、周辺部からの眺望の景観対象となっている。特に、浮雲園地から若草山に向けての眺望景観は、奈良公園でも特に重要な眺望景観として位置づけられており、尾根部のサクラ等は景観対象として重要な役割を担っている。



D ● → 重要な眺望景観
 E - - - → 眺望が楽しめる動線

周辺地からの眺望の景観対象

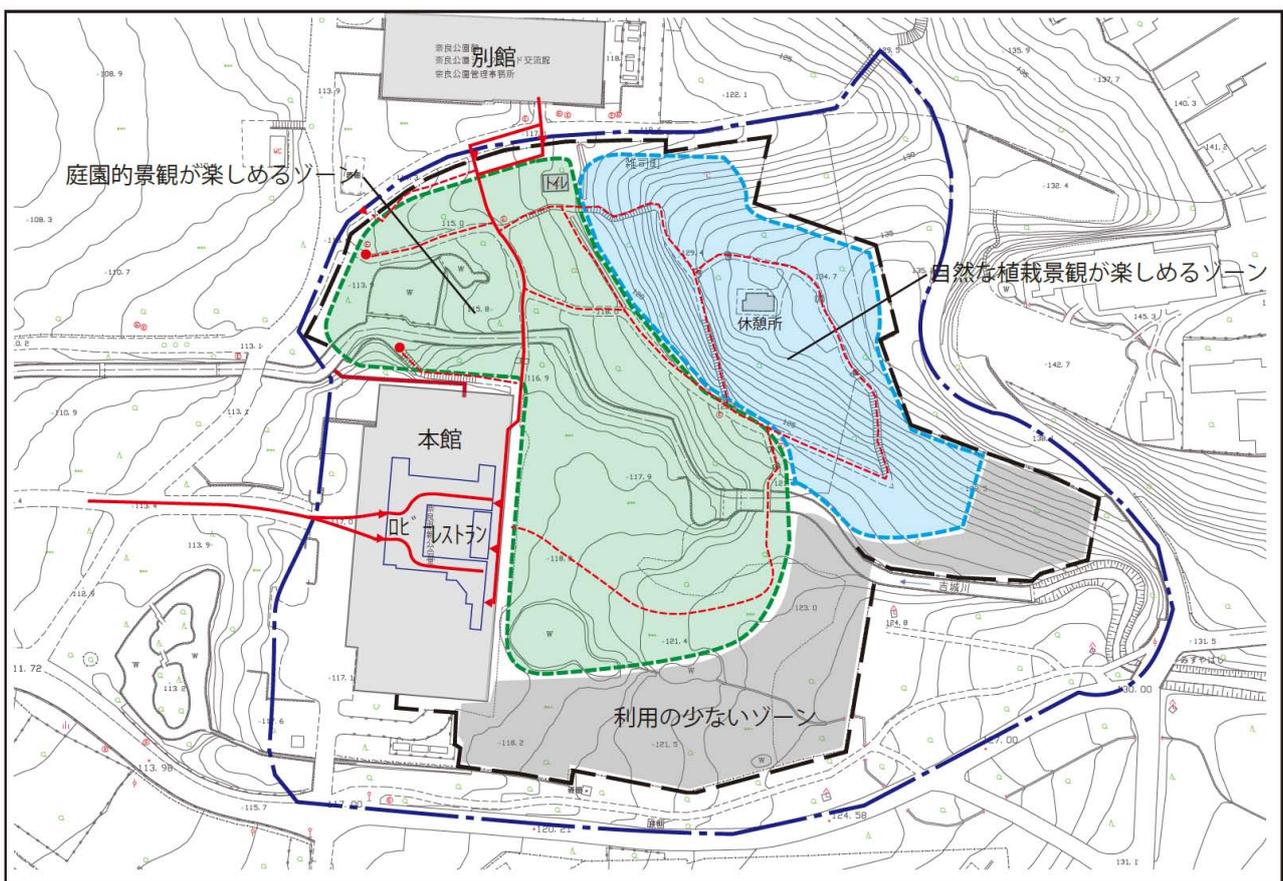


赤枠内：庭園内尾根部のサクラ類やクスノキ H26年4月 地点D付近から

(4) 庭園利用と植栽管理

1) 庭園利用

- ・庭園は、「薨」の施設の一部として管理運営されており、本館休日である月曜日と庭園の貸切利用日は、一般利用者は入園できない。
- ・入園は本館ロビーを通り抜けるルートと別館との連絡通路の入口を利用するルートがある。庭園利用は、本館と別館をつなぐ連絡ルートが主動線として機能しており、そこから庭園内にくっつかの副動線が派生している。
- ・庭園利用は、本館周辺の手入れが行き届いた「庭園的景観が楽しめるゾーン」と、尾根部の「自然な植栽景観が楽しめるゾーン」に大別できる。前者は、本館や連絡通路から目の届く範囲のであり、後者は、派生した副動線を利用して尾根部に登ることで楽しめるものとなっている。
- ・ひょうたん型の池より南側の部分の利用は少ない。



図：庭園利用の状況

2) 植栽管理

- ・庭園の植栽管理は、「薨」から奈良公園事務所に委託されている。
- ・庭園内の植栽管理で大きな作業量となっている作業項目は、以下のとおりである。
 1. マツ類の仕立て剪定（エントランス部含む）

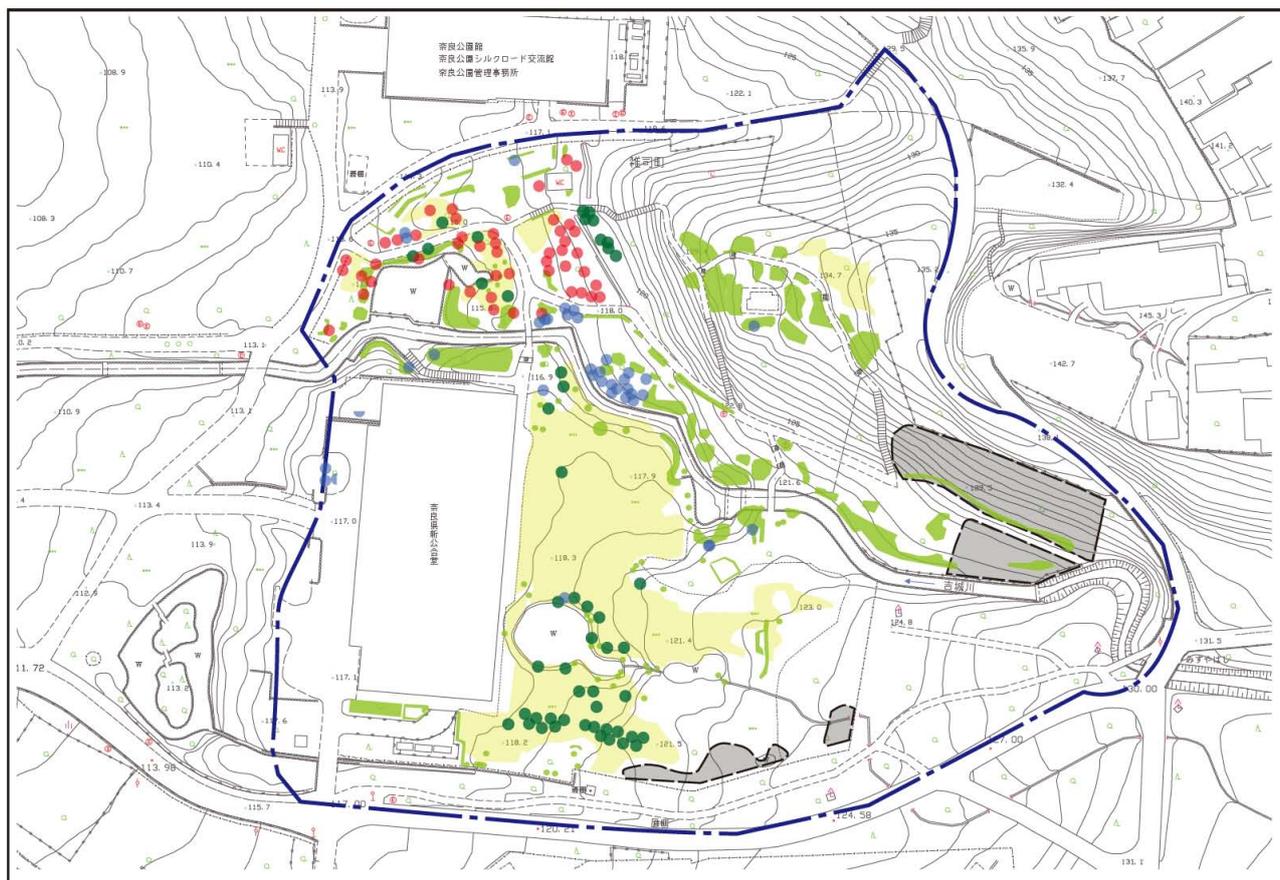
2.低木刈込み

3.芝刈

4.除草・清掃等

※以上、植栽管理スタッフにヒアリング

・庭園内で定期的な管理を行っている植栽は、下図のとおりである。



図：植栽管理の状況

3) その他の課題

○水施設に関わる課題

- ・吉城川等に堆砂する土砂量が多く、対応に苦慮している。
- ・池等の水質悪化のため藻が繁茂したり、土壌中の鉄分が湧出して見た目が悪い。
- ・吉城川の水涸れやひょうたん型の池の補給水不足が生じる。

○園路等に関わる課題

- ・尾根部の階段が滑りやすく、手摺り等もない。

○低木管理に関わる課題

- ・水路際や本館前芝地周辺の低木群植は、利用者の立ち入り抑制や照明設備修景の機能があり、配植の見直しには配慮が必要である。

○野生動物に関わる課題

- ・柵等を設置しているが、イノシシやシカによる被害が度々発生している。